

～三菱艦上戦闘機 烈風 11型 (A7M2)



[↓ F6F ヘルキャットと]



本機、烈風は、零戦に続いて正式決定された日本海軍最後の艦上戦闘機、そして堀越二郎が設計した最期の戦闘機です。ただし、エンジン選定等に手間取り、終戦までに試作機を含めて8機のみ完成に留まりました。模型の機体は、正式採用後の機体(三菱製ハ43エンジン搭載)です。機体の試験を担当した小福田皓文(てるふみ)中佐は「本機は甲戦(艦戦、掩護戦)としても、また乙戦(局戦)としても各種の性能すぐれ、比較的低翼面荷重と小馬力荷重とはとくに高高度性能の優秀性を保証し、真に現在世界無敵の戦闘機を称しうべし。」(『零戦開発物語』光人社 NF 文庫)と高評価を与えていました。もっとも、模型を作って改めて感じるのはその大きさで、ライバルとなるべき F6F ヘルキャットと同じくらい巨大な機体であり、カタパルトを有さない日本空母で運用するとなると、艦上での取扱いを持って余したことは想像に難くありません(残念ながら、戦争末期、日本海軍には搭載する空母そのものが残されておらず、その点の評価は脇に置かれたのかもしれませんが…)

【模型について】

日本のファインモールド(Finemolds)製のキットですが、角ばった翼端の水平尾翼が無粋に感じられて、メカドールの試作機型の翼端に変更しています。

(中川裕幸 2022年3月)

